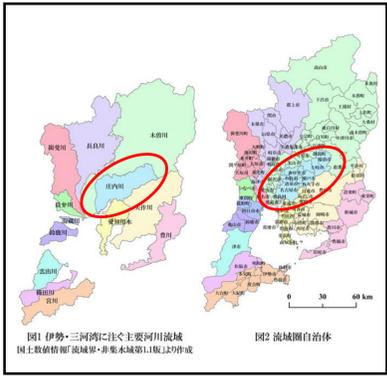


バイオエコノミーを実現するための庄内川流域圏での社会実装計画 ～SDGsで一步先へ進むまちづくり～

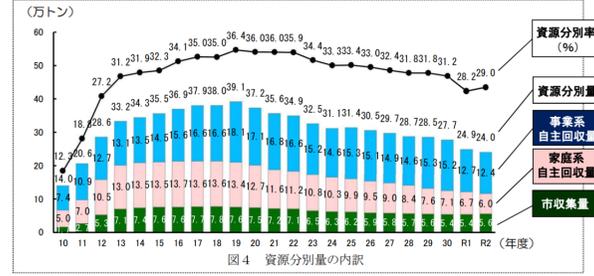


高橋拓矢（名大院農）、中村空（中部大建築）
高丸英伸（愛教大）、梁宇翔（名市大院経）

～マテリアルリサイクルで誇りのあるまち名古屋市へ～

名古屋市の資源分別率

平成11年（ゴミ非常事態宣言時）：18.8%
過去23年の最高値：36.4%
令和2年：29.0%（資源分別量はワースト3位）



施策① マテリアルリサイクル率の向上

[実行内容]

- デポジット制を導入したリサイクルステーションの拡充
- リサイクル品の公共物への還元 (ex. ベンチ、花壇)
- スーパーと連動してプラスチック食品トレー等の回収率・原材料統一 (企業への補助金or購入者への割引)
- いつでもどこでも資源を回収できる仕組み作り (街に溶け込むゴミ箱作り)

[想定する協力団体]

イオン、旭化成

[住んでいる方々の得るメリット]

- 景観維持、土地の価値アップ、公園遊具の拡充
- 複雑化した分別やごみ捨てのルールによる住人間トラブル回避
- 誇りの持てる住む場所への革新

～作られた食べ物を大切にすまち名古屋市へ～

名古屋市の2019年度食糧廃棄物量（事業系）：2.9万t
（参考 2019年度愛知県：3.8万t）
愛知県の食糧自給率：11%（2020年度）
→名古屋市が県外から集めて捨てている食糧の量が多い

施策② 食品ロスによる損失を少なくする

[実行内容]

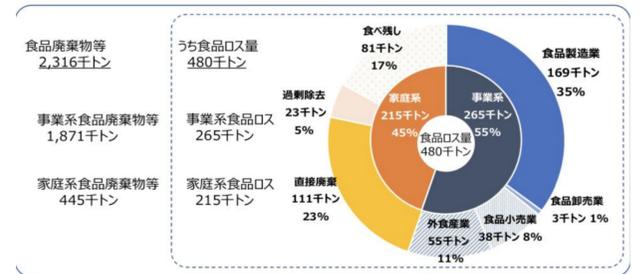
- 食品小売業からの廃棄量を減らす
- 各お店の商品を一つのサイトで見える化 (POSシステムの活用)

[想定する協力団体]

小売店、個人商店（持ち帰り商品のあるお店が対象）

[得られるメリット]

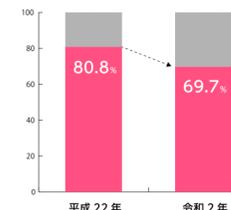
- 来店前に、どのお店にどの商品がどれだけあるのかが分かる
- 交通ICにポイントが貯まる、新しいお店の開拓につながる、新規顧客を獲得するチャンスができる



2019年度の愛知県廃棄物量

～いろいろなともだちが作れる名古屋市へ～

名古屋市：毎年、郊外近郊からの就職、入学によって新規参加者が多い
地域に存在するコミュニティが不足、縮小傾向。新たな関係構築の場が少ない↓
コロナ禍で停滞した地域活動を活性化させ、多様な文化、世代が共生する地域づくりを進める



名古屋市の町内会等への加入率（学区別生活環境指標より）

施策③ 地域コミュニティの形成、活性化

運営ノウハウの周知、相談指導、気軽に参加できるように情報発信の支援
コミュニティセンター、各集会所の充実 など

以上のマニフェストにより

1. リサイクルが当たり前なものづくり、まちづくりの名古屋へ
2. 食品ロスを削減すると同時に、名古屋市の経済も回せる！
3. 気軽に参加し、仲良くなれるコミュニティのある名古屋へ！